

生涯スポーツ・体力づくり全国会議 2015

－人・スポーツ・未来－

開催要項

1 開催趣旨

我が国においては、自由時間の増大、体力・健康づくりへの国民の関心の高まりなどを背景にスポーツ需要が増大しており、誰もがいつでもどこでもスポーツに親しむことができる生涯スポーツ社会を実現するための環境の整備が求められている。

また、ライフステージに応じたスポーツ活動の推進には、国や地方公共団体はもとより、各種スポーツ・レクリエーション団体や、スポーツクラブ、学校関係者、スポーツ関連産業団体等が、相互に連携・協力することにより、トップスポーツと地域スポーツの「好循環」を生み出し、支え合いと活気のある社会をつくるため、自発的に協働するスポーツによる「新しい公共」を形成することが重要である。

このため、関係の各界各層の人々が一堂に会し、地域におけるスポーツ推進の現状及び課題について、研究協議や意見交換を行い、相互理解を深め、関係者間の協調・協力体制の強化と生涯スポーツ社会の実現に向けた機運の醸成を目的とし、本全国会議を開催するものである。

2 主催

文部科学省、生涯スポーツ・体力づくり全国会議実行委員会（公益財団法人日本体育協会、公益財団法人日本レクリエーション協会、公益財団法人日本体育施設協会、公益財団法人スポーツ安全協会、公益社団法人全国スポーツ推進委員連合、公益社団法人スポーツ健康産業団体連合会、公益財団法人日本障がい者スポーツ協会、公益財団法人健康・体力づくり事業財団、岩手県教育委員会）

3 後援

体力づくり国民会議

4 期日

平成27年2月6日（金）

5 日程

受付 9:15- 10:00 (45)	オープニング 表彰式 10:00- 10:30 (30)	全体会 (基調講演・ シンポジウム) 10:40-12:30 (110)	昼食休憩 12:30-14:00 (90)	分科会 14:00-17:00 (180)	情報交換会 17:30-19:00 (90)
展示:9:30-16:00					

6 会場

受付・全体会・第1～4分科会・展示 「ホテルメトロポリタン盛岡 NEW WING」

〒020-0033 岩手県盛岡市盛岡駅前北通 2-27 TEL 019-625-1211

情報交換会 「ホテルメトロポリタン盛岡」

〒020-0034 岩手県盛岡市盛岡駅前通1-44 TEL 019-625-1211

7 全体テーマ

「持続可能なスポーツ環境の創出に向けて」

平成25年9月、2020年オリンピック・パラリンピック東京大会の開催が決定した。スポーツへの関心が高まっている今、トップスポーツの伸長はもとより、スポーツの裾野を広げる絶好の契機と捉え、今後も国、地方公共団体及びスポーツ団体等の関係者が連携・協働し、スポーツの推進に取り組むことが必要である。

また、今般、障害者のスポーツ振興に係る施策が文部科学省へ移管された。ライフステージに応じたスポーツ活動の推進において、障害の有無等を問わず、広く国民の誰もがスポーツに親しむことができる生涯スポーツ社会の実現に向けた環境を整備するためには、スポーツに無関心な人々に対しても、スポーツへの参加機会の提供が求められる。

今後、より一層スポーツ界が一体となり、2020年オリンピック・パラリンピック東京大会の開催を通じて、人々の主体的なスポーツへの参加促進など、大会開催後に何を残すことができるかを多様な視点から議論し、実行する必要がある。

そこで、本会議では、2020年オリンピック・パラリンピック東京大会を一過性のスポーツの祭典で終わらせるのではなく、年齢や性別、障害の有無等を問わず、より多くの人々がスポーツの楽しさや感動を分かち、互いに支え合い、スポーツの力を実感できる持続可能な環境を創出するための具体的な方策について検討を深める。

8 内容

(1) 全体会

○基調講演

演題：「スポーツの未来を考えるーオリンピック・パラリンピックを越えてー」

講師：為末 大（一般社団法人アスリートソサエティ代表理事）

○シンポジウム

①テーマ：「スポーツレガシーの創出に向けて」

②趣旨

2020年オリンピック・パラリンピック東京大会の開催決定を受けて、現在、全国津々浦々においてスポーツキャンプなどの誘致が活発になっている。

2020年オリンピック・パラリンピック東京大会の成功はもとより、大会後も見据え、全国各地においてオリンピック・パラリンピック・ムーブメントを推進することは、国際オリンピック委員会（IOC）のオリンピック憲章に規定されているオリンピズムの根本原則に沿うものである。

そこで、本シンポジウムでは、2020年オリンピック・パラリンピック東京大会に向けて、また、2020年以降の持続可能なスポーツ環境の創出に向けて、何ができるか、何をすべきかについて、具体的な事例も交えながら、検討を深める。

③コーディネーター

山本 浩（法政大学スポーツ健康学部学部長／教授）

④パネリスト

石井 理恵（リ・ボーンはすだ総合型地域スポーツクラブ副会長／クラブマネジャー）

為末 大（一般社団法人アスリートソサエティ代表理事）

間野 義之（早稲田大学スポーツ科学学術院教授、一般財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会参与）

(2) 分科会

①第1分科会

【スポーツの高潔性について考える】

担当：(公財)日本体育協会・(公財)日本体育施設協会

②第2分科会

【今、東日本大震災復興のためにスポーツができることを考える】

担当：(公財)健康・体力づくり事業財団・(公社)スポーツ健康産業団体連合会

③第3分科会

【2020 東京大会への気運の高まりを生かす取組】

担当：(公財)日本レクリエーション協会・(公社)全国スポーツ推進委員連合

④第4分科会

【障がい者スポーツへの理解・啓発について考える

～障がい者スポーツを理解してもらうために～】

担当：(公財)日本障がい者スポーツ協会・(公財)スポーツ安全協会

(3) 展示

生涯スポーツ・体力づくり関係団体、企業等のスポーツ関連活動を幅広く紹介するため、展示を実施します。

○展示時間 平成27年2月6日(金)9:30~16:00

9 参加者

地方公共団体関係者、スポーツ・レクリエーション団体関係者、各種産業界関係者、学識経験者、その他関係者他(約800名)

10 参加申込み(締切日：平成26年12月19日(金)厳守)

本全国会議に参加を希望される方は、別添の「参加申込書」に必要事項を御記入の上、下記宛先まで郵送又はFAXにてお申込みをお願いします。

<郵送の場合>

〒160-0022 東京都新宿区新宿6-26-7-2F

マッシュコーポレーション(株)内

「生涯スポーツ・体力づくり全国会議2015」係

<FAXの場合> 03-5155-3142

11 参加費等

(1) 参加費 1人2,000円(資料代込み)

(2) 弁当代 1人1,200円(希望者のみ)

(3) 情報交換会費 1人5,000円(希望者のみ)

[振込方法]

参加申込書受付確認後、請求書を申込代表者宛にFAX又はE-mailにて送信いたします(FAX、E-mailがない場合は、郵送いたします)ので、請求書を御確認いただき、下記口座にお振込みをお願いします。

みずほ銀行 渋谷支店 普通預金 3427831

コウ エキ ザイ ダン ホウ ジン ニ ホン タイ イク キョウカイ
公益財団法人日本体育協会

12 留意事項

参加申込みをされた方御本人の理由で参加できなかった場合は、受付時の配布資料を送付いたしますが、参加費等については返金をいたしません。

また、参加申込書に記載されている個人情報については、本全国会議開催に係る事務以外の目的には使用いたしません。

13 その他

詳細及びその他不明な点については、下記にお問合せをお願いします。

文部科学省スポーツ・青少年局スポーツ振興課 Tel 03-6734-2998 Fax 03-6734-3792 公益財団法人日本体育協会スポーツ推進部国内課（実行委員会事務局） Tel 03-3481-2215 Fax 03-3481-2284

なお、本全国会議は、（公財）日本体育協会公認スポーツ指導者の資格更新のための義務研修の一つとなっています。ただし、水泳、サッカー、テニス、バドミントン、剣道、山岳、空手道、バウンドテニス、エアロビック（コーチのみ）、スクーバ・ダイビング、スポーツドクター、アスレティックトレーナー、スポーツ栄養士、プロゴルフ（教師・上級教師）、プロテニス、職業スキーの資格者については、別に定められた条件を満たさなければ資格を更新できません。テニスの指導者は2ポイントの実績になります。（平成26年4月1日現在）

また、（公財）健康・体力づくり事業財団が認定する健康運動指導士、健康運動実践指導者の登録更新のための単位を2単位取得することができます。

1 テーマ

【スポーツの高潔性について考える】

2 趣旨

2020年オリンピック・パラリンピック東京大会後も年齢や性別、障害の有無等を問わず、より多くの人々がスポーツの楽しさや感動を分かち、互いに支え合い、スポーツの力を実感できる持続可能な環境を整えるためには、様々な課題を解決することが重要であるが、その環境を享受する市民が真にスポーツを理解する必要がある。

スポーツが持つ価値・使命を正しく認識し、スポーツに多様な形で携わる市民が増えることにより、スポーツの力を実感できる環境が持続可能なものとなり、ひいてはスポーツの高潔性を高め、スポーツの社会的地位の向上に貢献することにつながるものとなる。

スポーツが持つ価値・使命を伝える民間団体、学校教育、地域社会の三つの側面から、いかに「スポーツの高潔性」を高め、スポーツの社会的地位を高めていくかを考える。

3 コーディネーター

佐伯 年詩雄（筑波大学名誉教授、日本ウェルネススポーツ大学教授）

4 パネリスト

(1) 深澤 浩洋（筑波大学体育系准教授）

「『スポーツの高潔性』とは何か」

(2) 岡 達生（公益財団法人日本体育協会スポーツ指導者育成部部長）

「民間スポーツ団体としてのスポーツの高潔性を高める取組
～スポーツ指導者養成事業を中心に～」

(3) 溝口 紀子（静岡文化芸術大学文化政策学部准教授）

「教育、スポーツ指導現場及び地域でのスポーツの高潔性を高める取組」

1 テーマ

【今、東日本大震災復興のためにスポーツができることを考える】

2 趣旨

2020年に開催される2度目の東京オリンピック・パラリンピックは、我が国のスポーツ界において、スポーツのムーブメントを高め、ハード・ソフト両面を推進する大きなチャンスといえる。

一方、その恩恵が開催都市である東京に集中し、東日本大震災の復興が置き去りにされるのではないかという危惧も聞かれる。

そのような中、草の根にあって直接人々の心と体を支え続けることや経済・産業のルーツとしてスポーツを活用していくことなど、スポーツ界あげて支えていくことが重要となっている。

そこで、来る2020年オリンピック・パラリンピック東京大会を一人一人が喜んで迎えることができるよう、スポーツの力を生かし、被災地の復興や健康づくりを盛り上げていくための方策を考える。

3 コーディネーター

小島 光洋 (宮城県成人病予防協会学術・研究開発室長)

4 パネリスト

(1) 藤野 恵美 (NPO 法人日本健康運動指導士会岩手県支部指導部長)

「地域における地道なボランティアが被災地の心と体を支える

～もういない、まだ必要、二極化する現地で～」

(2) 須永 浩一 (ヤフー株式会社社会貢献本部スポーツ事業推進室ツール・ド・東北実行委員会事務局長)

「被災地の外からスポーツができることはもっとある

～ツール・ド・東北が被災地で行ったこと～」

(3) 永富 良一 (東北大学大学院医工学研究科副研究科長/教授)

「スポーツが被災地の体と心におよぼす効果～日常生活での身体機能と生活習慣の改善が被災時のメンタルヘルス悪化を予防する～」

1 テーマ

【2020 東京大会への気運の高まりを生かす取組】

2 趣 旨

2020年オリンピック・パラリンピック東京大会開催決定により、国民のスポーツ・レクリエーション活動への気運が高まっている。

東京都では、施設整備などのハード面はもとより、各学校でのオリンピック教育など、ソフト面での取組にも力を注いでいるが、各地方自治体や各種団体において合宿誘致をはじめとした様々な取組が計画されている。

そこで、施設活用、人材育成等の観点から、大会開催への気運の高まりや、開催後に恩恵を引き継ぐ事例を紹介する。

さらに、参加者によるグループディスカッションの機会を設け、大会への気運の高まりを活用した取組について検討を深める。

3 コーディネーター

松尾 哲矢 (立教大学コミュニティ福祉学部教授)

4 パネリスト

- (1) 茶城 啓二 (長野県教育委員会事務局スポーツ課体育スポーツ振興係係長)
「1998 長野冬季オリンピック後の施設活用状況と 2020 東京を見据えた取組」
- (2) 斎藤 道子 (NPO 法人うつくしまスポーツルーターズ理事/事務局長)
「スポーツボランティアの裾野拡大に生かす取組」
- (3) 松縄 宏 (東京都オリンピック・パラリンピック準備局大会準備部連絡調整担当課長)
「2020 年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた各自治体との連携等について」

1 テーマ

【障がい者スポーツへの理解・啓発について考える

～障がい者スポーツを理解してもらうために～】

2 趣旨

平成 25 年 3 月「日本の障がいスポーツの将来像（ビジョン）」を発表し、障がい者スポーツの普及・振興を推進している。

その中では、誰もが日常的に楽しめる環境整備によるスポーツの普及拡大と障がいの自立と社会参加を促し、活力ある共生社会を目指しているところである。

また、障がい者が身近な地域において生涯にわたりスポーツを楽しむためには、ソフト・ハードの両面から環境づくりを進めていくことが必要である。

このような中、一般のスポーツ指導者が抱えている「障がい者スポーツ全般にわたる特別な意識（不安）」を払拭することを目的に、テーマごとに現場の事例を交え、対応方法などを解説するとともに、「障がい特性」の理解促進を図る。

さらに、障がい者スポーツに関する不安や疑問を洗い出し、それらの内容について協議し、意見交換を行うとともに、「障がい特性」の理解を深めることにより今後の活動の普及・振興につなげる。

3 コーディネーター

藤田 紀昭（同志社大学スポーツ健康科学部教授、
(公財) 日本障がい者スポーツ協会技術委員会副委員長、
障がい者スポーツ指導者協議会研修部会部会長）

4 パネリスト

- (1) 森山 徹（むさしの発達支援センター所長、東京都市大学講師）
「知的・発達障害の概略、特徴についてスポーツ指導上の留意点と事例紹介」
- (2) 佐藤 敬広（東北文化学園大学医療福祉学部准教授）
「高齢者(脳血管障害含む)の概略についてスポーツ指導上の留意点と事例紹介」
- (3) 山崎 珠美（長野県障がい者福祉センタースポーツ課係長）
「障がいのある人とない人が実際に一緒に運動している事例紹介」

※第4分科会における「障害者」の表記について

第4分科会においては(公財)日本障がい者スポーツ協会が担当しており、本分科会については、「障がい者」と表記することとする。